大正十三年十一月二十日第三種郵便物認可
大正十四年三月三十一日印刷納本・大正十四年四月一日發行

婦人と労働

四月號

わが職業生活の
喜び、不安、憤り



職業婦人社發行

第三卷第三號
十四年四月號

婦人と勞働



隣の春

ピらッ リッ リッ 小鳥が空で笑つてる
隣りの大きな屋敷の庭に
美くしいチユリツプの花が咲いた
小供がチヨコ チヨコと歩いて行つて
垣根の間から手を出さうとして
わつと泣き出した
驚いてかけて行くと
つんとすました隣りの美くしい娘が
ちよきんちよきんと鋏を鳴らして
美くしいチユリツプの花束を拵へてゐた
さうだ 春は隣の屋敷まで來たのだ
リリッ リッ リッ 小鳥が空で笑つてる

婦人と時事

職業生活への新らしい門出

この三月に學校を卒業してから、新しく職業婦人として世に立たうとする婦人の數は余程多いやうである。東京市社會局の調査に依ると、高等女學校卒業生が、年を追ふて非常に多く職業生活に入りつゝあること次の如くである。

大正六年度—卒業生の三・四%
同　七年度—仝　三・九%
同　八年度—仝　四・八%
同　十年度—仝　五・〇%

今年度のある女學校の如きは、卒業生の三分の二は就職にきまつてゐるといふ位であるから、婦人職業が素晴らしい勢で發展してゐることを見逃がすことが出來ない。

然し考へてみると、婦人職業はあまりに世に宣傳され過ぎたこゝ兩三年、職業婦人問題の賑かであつたこと。而して傳へられるところの職業婦人生活の如何に樂しく、如何に面白く、如何に自由さうであつたことよ。

そして、婦人は今や、それらの書入り、寫眞入りで華やかに紹介された職業生活を實地に踏んで、ほんとうの社會をみ、ほんとうの職業生活を經驗するべく第一線に立つたわけである。

新らしい試みとしての、婦人の職業生活が、何を婦人たちに語つてくれるか？

とは云ひながら、長い間煮炊き洗濯の中にその一生を埋沒させてゐた婦人が、一歩足を社會に踏出して、前代の婦人たちが夢にも思はなかつた社會生活即ち職業生活を初めて經驗するのである。新しい婦人の生活は、こゝよりぐん〳〵たぐり寄せられて初められるであらう。婦人

の内的、外的の兩生活が、いちじるしく充實し、擴大されるであらう。婦人の生活は一變するであらう。この一變革をその生活の上に經驗しやうとしてゐるところの多くの年若い婦人たちに私は告げたい。あなたの職業生活が樂しいか、つまらないか苦しいか、不愉快であるか、を私は知らない。然し乍ら、その生活を樂しくするのも、苦しくするのも、それは一つにかゝつて、あなたがた自身即ち全職業婦人自身の決心如何にあるのである。恐らく無理解な男子達は昔ながらの因襲的女性觀を以て新らしい生活の第一歩を踏出したあなたたちに、輕侮と冷笑或は卑猥の眼を向けるであらう。資本家は可及的に安い賃銀と、不當に劣惡な雇傭條件を以て、あなた達の青春の夢をふみにぢつてゆくであらう。さういふ辱めと暴虐を前にして、婦人はどう、その職業生活を進めていつたらいゝのか。

かう考へて來ると、あの華やかさうに見える職業婦人の生活も、一つの大きな悅びであると同時に、又一個の大きな戰ひである。そして職業生活はたゝかいであると意識した時に、あなた方は、自分一人ではどうする事も出來ない今の世の中の組織の根本によこたはつてゐる大きな暗礁に氣がつくにちがひない

この暗礁！

而してあなた方をこの職業生活のたゝかいから庇ひ、あなた方に力を附けてくれるものは、たゞあなた方職業婦人自身に依つて成る組織の力、團結の威力だけなのである

婦人デーの議會見物

三月十日は衆議院の婦人解放デー、押しよせた婦人傍聽者が三百、實に議會始まつて初めての盛況で

あつた。この日は、今期議會に上程さるべき婦人に關係のある議案五つが、ひと纏めにして取扱はれることになつたのである。獲得同盟會では、婦人側の氣勢を一層揚げるために、一人でも多くの婦人が傍聽するやうに盡力した。初めて衆議院内での議事進行振りを見、代議士たちの婦人問題に對する態度をみて、婦人たちはどんなおみやげをその心の中に持つて歸つたのであらうか。戸主ならば婦人にも參政權を認める、と云つて他黨に比べて大いに婦人問題に理解ある如くに見せてゐた政友本黨の議員席は丸でガラ明きであるし、居並ぶ代議士諸氏も餘與見物の氣持で、ニヤ〳〵と二階の婦人席を見上げたり、新聞など擴げて眺めてゐたりして、殊更に、俺らは婦人の問題なんかに、さうムキになつてゐる者ではござらぬ、とでも云ひたさうな人が多かつたさうではないか事いやしくも社會の半數を占める婦人の上に關する問題であるこれを眞面目に、ムキになつて掛る人は嘲笑され、野次られるといふ事は――ひどく下劣な野次が頻りに飛んださうである――私たち婦人として充分に考へ直す必要があらうと考へる。新聞紙の傳へる處に依ると、ベルギー議會は、上下院共に、婦人參政權問題で解散されたといふ。同じ參政權問題を取扱ふのに、その置かれてゐる地位の何といふ大きな差異であらうか。

一体、我國の婦人參政權運動といへば、對議會的に、政黨や代議士たちに請願、懇願の形で行はれるものだけに限られてゐるが、婦選運動が、どこまであの低劣不快な現在の政黨に繫がつてゆかふとするのであらうか

治安警察法第五條修正の運動よりこの方、對議會的の婦人の

政治運動が行はれ始めてから六七年經つ。あの不まじめな議會を傍觀して呆れて歸つた婦人の數だつて少くはない筈である。

少しでも、冷靜に今日の議會を批判し乍らみて來た程の人たちは、今こそ、立つて既成政黨屋共に依つて誤られやうとしてゐる今日の婦選運動を――婦人に關する議案が今の議會を通過するにしてもしないにしても既成政黨が婦人の政治運動を毒することに變りはない―正しい方向に歩み直させることに努めなければならぬ。請願や懇願は不まじめな彼等を一層つけ上らせて、我等の婦選運動を一層卑しめる事になるばかりであらう既成政黨否認！乞ふ、入れ換はらむ、といふ風な決議文を突きつけて現議會現政黨員共に迫るほどの、新しい婦人の政治運動を起すものは無いのか。

自殺する女の激増

近頃自殺をする女の數が非常に殖えたさうである。一つしかない生命を捨てるのである。それ〲に餘程切破つまつた問題においつめられてのことであらう。然し、死んで一切の問題が果して片附いたか。死んで問題が解決されないこと、あきらめで問題が解決されないのと同じである。

一体に婦人はすぐに死を思ひつめたり、何事にも手つとりばやく諦めをつけたり、困難から身をさけて安逸をむさぼらうとしたりする惡い癖を持つてゐる。

進んで自分の運命をきり開かうとはしないで一時のがれの行爲をしたり、姑息なほんのその場限りの平和やお体裁やのつぎはぎな暮しに甘んじて、將來の一層大きな不幸の種を蒔いてきたこれまでの婦人の生活に就て、私たちは考へてみる必要がある

來るべき時代の女性に就いて

千葉龜雄

わが國ばかりではない、どこでも反動の勢力が强く支配して居る。政治にも、社會にも。しかしこれは怪しむに足らぬ。また驚くにも足らぬ。それは、現實を破壞して、新らしい途に進もうとする動の力の、他方に强烈であることを示すのだから。それは物理學の法則である。動かうとする慾求が、平衡を强く破れば破るほど、それを遮り止めやうとする、保守反動力の振幅も、それと比例して大きくならざるを得ない。そして、この二つの反撥と衝突をゆうゆうと乘せながらに、世界はどんどん將來へ進んで行く。丁度、時計の振子が、左と右にゆれ動きながら、時の進みは將來を歩んで絶えず止まぬやうに。

そう考へて來る。すれば、現代女性運動に關する各國の觀察において、いくらかでも保守的な反動論が、中に多く行はれて居ることは怪しむに足らない。女性の社會生活に比べて、いくらか進歩的である筈の、男性の現代的飛躍に對してさへ、いたるところに反動の鹿柴がつくられて居る。ましてや、これまで、全く保守的なものと考へられて居た女性が、男性と

いくつわを並べて、社會上の地位を均等に獲やうとするのだ。それに對して、男性以上に、いろいろな反動的批難が起るのは自然に止むを得ないことだ。それは現代の女性が、まづ出立において覺悟せねばならぬ第一箇條だ。

實際、近頃私の讀む英米の婦人論の著書では、女性解放運動、――或は大きく云つてフェミニズムだが、――このフェミニズムを賛成する著書が一とせば、それに反對する著書が三或は四の比例になつて居る。或ひは、私の見聞狹いためかも知れぬ。としても、そして其の要旨は、生理學的、發生學的に女性の本質を研究し、結局、現代女性の社會解放を否認して、家庭に還れといふのである。

尤も、アントニイ●エム●ルウドヴィンが、最近の小著「リシストラタ」のような事實の研究になると、一寸、日本だけの事實からでは想像がつかなくなる。「リシストラタ」は、一名「婦人の將來、男性の將來」といふ別名をもつた著述なのだが、ルウドヴィンは、先の大著「ア●ヴィンヂケエション」でもわかる通り、先づ熱烈な反女權擴張論者であり、家庭へ還れの强調者である。たゞこの「リシストラタ」では、彼自身の本國イギリス女性勞働者の現狀から立論して居るところが價値である。つまり彼は、現在イギリスにおける男性の人口に對する女性人口の夥しい過剩が、こゝに獨立生活に依賴せねばならぬ二百万人の勞働婦人を作り、彼等が一生、戀と結婚の味ひを知らずに、それだけ、人生の幸福を知らずに死んで

了ふ。こゝに勞働階級の婦人の悲哀がある。が、彼等とても、父母の肉體から、この性慾から生れたものであることを忘れてはならぬ。その性慾と寂寥感をどう處分するか、けれども彼等が、それをついに處分しきれない結果は、そこに彼等の生理心理に、恐ろしい異常變化を來さねばならぬ。自然の與へるものに反抗することは、自然からの復讐を得ねばやまないからだ。かくして或るものは、性慾を全く忘れて了ふために、性格が男性化して了ふ。また宗敎上の信仰にすがつて、性慾をきたないものとして、自分の信念に無理にそう信ぜしめる少くとも、この二つの觀念からだけでも、彼等は男性と協和して進んで行かうとせずに、どこまでも男性を敵とし、惡魔とし、下等なものとし、男性と闘つて行かうとする心理を養ふであらう。されば、女性そのものゝ革命であると同時に、從來の女性らしさ全體の破棄であり　また家庭と兒童敎育の棄權でもある。先づ彼は、こんな現實から議論を進めて居る。全體の調子が、有り得ないほど誇大な想像で、結論を力づけやうとする嫌ひもあつて、隨分馬鹿〳〵しいところもあるが、要するに、彼はその結論において、家庭に還れ、また還らしめよといふのである。けれどもその基調において、やはり、現代以前の女性原理を標準として說いて居るところに破綻がある。

この點では、自分は可なり、アーノルド●ベンチットの新代女性觀に共鳴する。ベンチットは說くのである。現代の年老いた婦人は、かつて、「モダアン●ガアルは、歡樂が好きだ」と

言つた。けれども、現代の中年の婦人達は、「モダアン●ガアルは、勞働が好きだ」といふ。私(ペンネット)は、その後者に共鳴し、また後者を至當だと思ふのである。つまりモダアンガアルは、歡樂も好く、が、勞働も好く、そして、モダアン●ガアルのモダン●ガアルであるところは、彼等がその勞働を、一つの歡樂そのものにしやうと努力するところにあるのだと。

ペンネットとは、云ふまでもなく、イギリス作家の一中堅である。けれども、日本の作家であつて、モダアン●ガアルといふものについて、これほどの聰明と同情をもつて、モダアンガアルと職業婦人を眺めて居る作家は、今日どこに居るであらう。或る作家は、到底モダアン●ガアルは摑めないと長嘆した。モダアン●ガアルの生活を、また現代社會生活を理解することがなくして、どうしてモダアン●ガアルを摑み得やう、二三ケ月前から、ある三人の純粹のブルジヨア作家が、三つの現代職業婦人を描いた。その理解に盲目な點において、それはことに、恰好なブルジヨア思想の見本を、わざわざ提供してくれたに過ぎなかつた。

自分の讀んだ海外文學で、職業婦人の生活を描いたものは決して二つ三つでは足らぬ。けれども、そこに面白い發見は、それが前期の職業婦人であつて、また勞働婦人であつて、來るべき時代の職業婦人でないことである。たとへば、金のために、虛榮のために、若しくは横暴な男性のために一生を日蔭者に暮らす、大ていそんな類である。前期の婦人觀から生れたものだ。たゞ近代ラシアの作物に現はれる職業婦人こそは、直ちに將來を指さす指標であ

つた。

ところが、この前世紀婦人觀といふものが、どんなに現代女性の勇敢に進んで行く途を、無慈悲に妨げて居ることか。前世紀の婦人觀とは何か。それは女性といふものを、もう遺憾なく試驗濟みだと思ふ觀念である。女性の心理は斯の如きもの、頭腦の容量は斯の如く、感情的で、保守的で、思索的機能にかけて居る云々。そしてもう、何一つ見落されたものがないとし、何事にもその定木をあてはめて、女性將來の生活までをも、制限しやうとするそれである。

然う、そうした意味では、或る期の女性は試驗濟みであつたかも知れない。けれども彼等の大きな見落しは、それが「過去のやうな、社會生活に置かれた」女性の試驗濟であつて、もつと違つた社會に置かれた「ならば」の、その女性の試驗濟みでは無かつた。そして社會は變化する、彼等が試驗濟みと考へた女性も、つまりは、過去の社會が、そんな風に作り上げた女性の試驗濟みに過ぎなかつた。だから、もし、新らしい社會生活がそこに芽まれた日から、全く試驗されなかつた處の、新らしい女性の發生することも、明白の理ではないか。然るに彼等は、そんな大事は、殆んど平氣で見落して居る。こゝに彼等の議論の、調和し得ない矛盾がある。もし女性なるものが、全く社會生活に關係なしに、その内的生活が獨立してゐるものならよい。ところが、これまでの女性の内的生活は、悉くその社會生活の型どほり

に塑製されたものだ。それがまた、社會生活を基調とする人類の常識なのだから、從つて、別の新らしい社會が起つて來た場合に、またそれに順應した、新らしい型の女性が生れずには女性の生活はとても繼續されない。新時代と、新時代の女性を考へるものは、先づこゝに眼を着けねばならぬ。然るに現代の新女性に反對するものは、みなこの点で盲目だ。

たとへばアメリカの或る博士は、近頃イギリスに、アメリカに、女性の政局侵入が多くなることを論じた。アスタア夫人が、アゾォル男夫人が、ヒルトン、フキリップソンが、イギリスで、またアメリカで、フアグソン夫人がテキサスの知事に、また他の女性が、ワイオミングの知事に、ナップ孃が、ニユウヨオク州の秘書になつた。そうした傾向を論じて、婦人は一体コンサアヴエチヴなものだから、政治に適してゐる。彼女等は男性よりも冒險心に乏しい。だから社會的の革命などが出來ない。政治に對してたゞプログレッシイヴである。だから婦人が、共產黨になり、社會主義者になり、無政府主義者になると、男性よりも兇暴になる。つまり社會的の爭鬪といふやうなものは、女性の性格に適してゐない。だから面くらつてしもふのである。ところで、完全な政治といふものは、コンサアヴエチズムと、リベラリズムの間で、完成な平均を採ることによつて出來上る　この均等をさることは、男性よりも女性の方がづつと適能だ云々と言つてゐる。

なぜ、こんな風に、保守主義といふことを、いつまでも女性の一機能とさせねばならぬのか

が、どうでも、舊女性觀測のかういふ定木を持つてでないと、現代女性が觀測し得ないのがまた即ち舊女性觀者の特徵なのである。そして日本の現代舊女性論者は、殆んどこの手合で一杯である。果は新知識と呼ばれる手合にさへも、かうした舊式な保守觀をふりかざして、新女性の將來を呪咀するものがあるからたまらない。

が、何でも無いことだ。人類は社會を作り、またその社會で人類が作られる。そこで、Aの社會には、それに適應したAの人類が出來る。隨つて、Bの社會には、Bの人類が生れてAの人類が消滅する――單にこれだけの三段論法さへ心得たら、新時代の女性の限り無い將來は、喜んで祝福され、そして研究されてよい譯なのに、それが出來ずに、無用の混乱を重ねてゐる無知な人間ほど度し難いものはない。

女性が先天的に弱いものであつたとか、女性が元から從屬的なものだと說く論者は、原始生活の社會を見るがよろしい。彼等は女性の原始に還れといふ。女性が原始にかへつたならそれこそ、女性統治、女系家庭が、かへつて原始の社會狀態であつたことをどう解釋してよいか。



職業婦人の經濟的地位

山川菊榮

八

今日の國民經濟の上に婦人がどれほど重要な地位を占めてゐるか、といふことは、産業に從事する婦人の莫大な數によつて窺ふことが出來ます。農業、工業、鑛業、漁業等は云ふに及ばず、商業交通業、教育、醫務衞生其他、苟くも今日の社會生活を維持するに必要なあらゆる種類の事業を通して、婦人の活動の見られぬといふ所はなく、仕事によつては、男子より婦人の方が適當と認められるもの、又は男子より婦人を多く使用してゐるものも決して少くないのであります。今日、婦人の協力によつて維持されてゐる一切の産業や、公務及び自由業から、婦人の勞働を引拔くことは、單に不可能であるのみならず、直ちに國民經濟の破壞をを意味することゝなるのであります。

かように婦人の勞働が國民經濟によつて必須の重要な要素であるといふ事實の存する限り、單に家庭の内部に於ける消費者としての資格に於てのみ、現代の婦人を考へることは出來ないのであります。現代の婦人の生活の極めて重要な部分を占めてゐる生産者として、賃銀勞働者しての婦人の

生活に對して、その重要さに價するだけの注意を頒つことをせずに、婦人は、封建の昔も、今日の時代も、そして未來永却全じように、單に家庭に屬し、夫や子供のみに屬する者、又は屬せねばならぬものとして婦人問題を云々する人々には、婦人問題の眞實の意義は摑めないのであります。

勿論男子の中にも、無智や偏見のために、この婦人問題の眞實の意義を理解し得ないものは少くないのでありますが、殊に困るのは婦人の中に、この自分自身の當面の問題について正しい理解をもたぬ人々の多いことであります。四百万の婦人は、男子と同樣に獨立の有業者として働いて居る更に他の八百万内外は、近代的な獨立の勞働者でないまでも、夫や父親と共に、農業や手工業に從事して社會の生産を維持して居る、といふことは「家庭は婦人の領土」だといふ假定を打破る何よりの反證であります。然るに社會的にこれだけ重要な地位を占め、これだけ重要な使命を帶びてゐる婦人勞働者及び職業婦人が、自分らの地位を自覺することなしに、職業生活を一時的、偶然的な、無意義なものゝやうに考へ、必要に應じてはいつ何時でも、『婦人本來の領土』と稱せられる、家庭といふ絕對安全の避難所が、温かい懷ろに抱き入れて一切の問題を解決してくれるように考へることは、婦人自身にとつても、無産階級全体にとつても、誠に危險千萬なことだといはなければなりません。家庭は社會を支配するものではなく、却つて社會によつて支配されるものであります。言葉を換へて云ふならば、各々の時代の家族制度の形態は、常にその時代の經濟組織によつて支配され、成立せしめられるものであつて、家庭生活はどんな場合にも社會の經濟生活の影響の外に超越

した、獨立の要素ではあり得ないので、無產階級全体の生活が危機に瀕してゐる場合に、家庭生活のみが、その危機の外に立つ、獨立の安全地帶ではあり得ないのであります。然るに現に階級鬪爭の犧牲となり、貧困の犧牲となつて破壞されつゝある無產階級の家庭をも猶ほ、富によつて守られ文化によつて飾られてゐるブルジョアの家庭と同じような、安寧と幸福とに充ち滿ちた極樂のように思はせ、結婚と家庭とが婦人にとつての救世主であるかの如くに說くことは、婦人の無自覺を助長し、隨つてその悲慘を永續させる結果を伴ふにすぎないのであります。

九

けれども、婦人に對して單に職業生活を無條件で奬勵し、只だ多少の收入を得るといふことが一切の救濟を齎らすかのように說くことにも、家庭生活を美化する幻影と同じように婦人を欺く陷井であることを忘れてはなりません

今日、婦人の活動範圍は日每に擴張され、婦人勞働を歡迎する向は益々增大する一方でありますが、其等は婦人に自由や幸福を與へるためではなしに、事業主自身の利益のために行はれるのであり、婦人としては、機械や道具と同樣、單に雇主の金儲の道具として利用されるものであることを忘れてはなりません。

然し婦人勞働に對する需要が增大し、婦人が獨立の收入を得る機會が增加するにつれ、そういふような社會的變化が直接又は間接に婦人の思想にも變化を來させて、婦人の間に、封建的な家族制度と沒我的生活とに反抗する氣分は漸く濃厚となり、個人的自由に對する要求が次第に力を加へて參りました。これは婦人が自分自身の力を自覺し

その人間としての價値を知つた結果であつて、その反面にいかなる缺点や弊害を伴ふにせよ、全体としては一進歩として喜ぶべきことに違ひありません。けれどもさうして勇敢に家長の權力に反抗し、家族制度の桎梏に反逆して、個人的自由を求める一手段として職業についた現代の娘達は、職業によつて果して何程の自由を得たことでありませう？到底獨立の生活を保障するに足らぬ程の廉い賃銀と、劇しい仕事と、長い勞働時間と、そして社會の偏見と輕侮とより外に、何ものをかち得ることが出來たでありませう。

職業生活に對する期待が裏切られ、肉体的にも精神的にも疲勞して來る時、多くの婦人は、最初の自由解放の要求をも忘れ、戰鬪的氣分を失つてまつて、ひたすらに安易な生活を求むるの余り、人間としての尊さをまで擲つて省みないことになります。所謂職業婦人の墮落が茲に端を發してゐるのは云ふまでもないことであります。

要するに今日の世の中では、無產階級の婦人――即ち大多數の婦人は、家庭生活と生產的勞働との兩方に亘つて過大な負擔を負ひ、男子に勝るとも劣らぬ働きをしながら、その勞苦に價するだけの地位を認められず、人間として持つべき當然の權利を拒否されて居るので、この点は家庭婦人たると勞働婦人たるとによつて、何等の變りもある譯ではないのであります。

十

今日の世の中では、婦人は家庭に留まつても生活の保障は得られず、職業も亦、奴隷生活の延長にすぎないとなると、それでは一体どこに安住の地を求めたらよいか、といふ問題が起つて參ります。が、現實の生活に於ては、いかに不滿でも不

快でも、どもかくも吾々は何とかして生きてゆかねばならぬ必要上、家庭に留まる者は家庭を出來得る限り愉快なものにしようと努め、職業に從ふ者は、それによつて少しでも多く生活の安定を得ようと努めるに違ひなく、それは吾々の本能でもあり、當然の權利でもありますが、いかに努めたところで、吾々の個人的生活の範圍内では到底解決のできぬ問題をどうするかといふことになるとそこに始めて無產階級の組織的な力の必要が感ぜられて來るのであります。

今日、婦人問題を論ずる人々の中には、何百萬の勞働婦人の存在を無視して、その利害を度外視して、婦人はたゞ家庭といふ、階級鬪爭の外に超越した別天地乃至空中樓閣にとぢこもることによつて、その問題を解決し得る筈だと主張する幸福な樂天家もあれば、又遮二無二、稼ぎさへすればよい、働きさへすればよい、そして一錢でも多く稼ぎ、一錢でも多く貯金して、目前の生活を多少なりとも安易ならしめることが、婦人の奴隷的地位を改善する最も有力な方法だと信じて居る人々もあります。今日、婦人のために授產所設置の必要を說き、內職を奬勵し、速成の職業敎育を企てたりする中流階級の婦人達は、多くこの第二者に屬するものであります。婦人のために、就職の道を開き、職業的訓練の方法を講ずることは必要に違ひありませんが、それが、他の一切の條件を無視して、單に一錢でも收入を擧げさへすればよいといふような無智な、卑屈な、奴隷的勞働を養成する限りに於て、さういふ企ては、婦人自身の利益を名として、その實彼等を資本家の金儲けの道具として仕立ててゐるに外ならぬのであります。

が、婦人が家庭にさへ入れば安寧と幸福が保障

されるものでないと同樣、職業について只だ〱稼ぎさへすれば一切の問　が消滅して、只だ満足と安易な生活が殘るものでもないことは云ふまでもありません。勞働婦人が家庭に入つても、家庭婦人が勞働者となつても、無産者としてのその待遇その社會的地位に何等の變化もある筈はなく、隨つて問題は依然として解決されずに殘つて居るのであります。要するに今日の世の中では、勞働者としても、主婦としても、無産階級の婦人の問題は絶對に解決される道がないので、この解決のできぬ矛盾こそは、やがて今日の世の中の繼續することを不可能にする原因なのであります。

—終り—

貧乏の歌

おく　えいち

手を擧げて
海に逆ふ心地しぬ
花の上野を一人歩めば

○

春たてば
下水のみづも大空の
影を浮べぬ悲しからずや

○

貧乏よ
いつしか汝も兄弟の
如くになれて我に親しむ

○

嘲りと櫻の花を
背にあびて
かの野良犬は息絶えにけり



この四月から、東京市内の電車の中に赤襟の女車掌を見るやうになりました。何しろ珍らしい事でもあり、車内の全ての目がその人の上に集る程ですから、氣まりが惡くはないかしらと案じられます。扨、電車の車掌は女に適してゐますかしら。大道局長の採用理由はたしか、女なら安上りになる、といふのでしたね。東京市電氣局のふところ具合の犠牲になつて女車掌は肉體的にも精神的にも殺されてしまうとしたら、どうしますか。勇敢な新職業の開拓者として立つた車掌さんたち、あなたの母性を擁護するために、もう一倍勇敢になつて勤務條件の改善に務めなくてはなりません。

第一線に立つて婦人參政權運動にたづさはつて居る人々を應援する意味で有志婦人の麗日會は、文士、畫家それ他知名な人たちの書畫を賣つて資金を集め送りました。



わが職業生活に見出す

喜び、不安 憤り、面白さ

×

和歌山 こしち

女も男もその實に於ては違つて居る。けれども女だから惡い、男だから善いとは定つてゐるものではない。そのものゝ活用によつて定まるものだと思ふ。惡い男に盲從してる間は女といふものはあがらない。その因は經濟的によるものが大だ。この意味において職業婦人として立つてることをうれしく思ふ。

喜び——私の心にぴつたり合ふやうな事をしてくらしてゐたいのが私ののぞみであり、私の職業撰擇の條件でした。そして生れたのが幼稚園の保姆でした。何もしらずにのびて行く植物に對して光を與へたり、食を與へたり、はさみを加へたり、虫をとつてやつたりして行く精神的の仕事を私共はしてゐますが、或る信念を持つてゐますのでその日〳〵が愉快でたまりません。私の縦の關係はこんな工合ですが、横も割合自分次第になつて何の束縛もありません。けれども保姆同志がもつと家庭的であつてほしいと思つて居ます。

×

東京 前田つぎ

【一】滿十七ケ年一つの職業に從事して來ましたが、特に職業生活そのものから受けた喜びといふ様な感じを持つた事は有りません。強いて云へば人格高潔な雇主（英國人）から受けた精神上の感化を無上の喜びとして居ますが、之は職業生活からとは云へますまい。何故なれば職業上でなくとも、斯様な人に接近して居れば同様な感化は受けませうから。

【二】未だ嘗て有りませぬ。

【三】人數の少い事務所で、殊に何れも相當の人格を具へて居る者のみの所へ、統轄する者が婦人には常に相當な敬意を表しつけて（假令表面丈けでも）居る外人であり、事務を執る者等一同の間に聊かの階級觀念も無し、性的差別も感ぜず、相互に一個の人格者として敬意を表して居りますし、業務上の事も一切公開的で、至つて共和政体の氣分の濃い所ですから恐らく今までに居た者誰でも憤りを感じた者はありますまい。

【四】面白さといふ事も、格別感じませぬ。休日明けなどに山と積まれた用事を端からズン〳〵處理して行く、時間の經つのがわからぬ様な時が一番面白いとでも申しませうか。要するに平凡で特筆すべき何物も有りませぬ。

×

東京 O 子

【一】一般社會の人が私達職業婦人を社會的に認めつゝある事。

【二】何によりても資本主義的經濟組織の世の中が不安です。

【三】無理解な人達が私達を賤しむ事。

【四】現在の私達には何にも面白い事はありません。

×

一女教員

【一】喜び——育英事業の尊さを味ひつ

ゝ自營自活し得る事。
【二】不安――經濟的に充實せる背景を有するに至らば不安なからん。
【三】憤り――女性なるが故の薄遇よりも、女性なるが故の精力不足が憤らしい。併し之は人によりて異ならん。
【四】面白さ――お得意を發揮し得ること。
【五】要するに今日の如き物質文明に於ては、經濟的脅威を感じない人間となれば(或は境地を得れば)此世には愉快そのものであらう。

×　神奈川　村山みどり

【一】心身の自由を與へられた休憩。休日。
【二】別にありません。
【三】紳士の假面を被れる男子の醜行、同地位に在る男子の從業員の差別待遇。
【四】無邪氣なる子女を相手に業を勵む事。

×　横山ちよ子

【一】職業そのものから受ける喜びを意識するには、無產者としての私達現在の生活は、餘りに壓迫と不安とにおびやかされて居ると思ひます。現在の經濟組織のつゞく限り、私達に眞に職業に對する喜びをそのまゝ享樂することが出來るでありませうか。私はあらゆる物に於ける迫害と壓制との中に、根強く生き樣とする努力と要求とを、自己の全生命だと信じて居ります。眞の自由と幸福とにみちた社會建設の爲の努力こそ絕對的生活の喜びだと考へて居ます。
【二】私達は現在社會の如何なる場所でも、食ふためにも、働くためにも保證さへも與へられては居りません。僅かな生活費の中から本の一冊でも買へば、直ちに幾日かは恐ろしい生活の不安に慄まねばなりません。併も〇〇の都合次第で何時生活の保證は奪はれるかも知れない運命です。一ケ月と續いて病氣にでもかゝつたり、妊娠でもし樣ものなら何よりも欠業を覺悟せねばならぬ事實をみるのです。私達は今食ふ爲の不安と働くためとの二重の不安に苦しめられつゝあります。併も之で女性としての天職を果すべき地位に置かれてゐると、考へられるでありませうか。
【三】女性なるが故に受ける社會的地位、待遇の如何に悲慘であり、奴隷的であるかを意識する時、最早現在の生活に屈從するに忍びません。むしろその根本的改造の必要を切望して居ります。只單に女性の男性に對する從屬と云ふ事以外に總ての人が自由と幸福とを樂しみ得る社會建設のためには、如何なる犧牲も惜むものではありません。此の運動に對しては賣名と遊戲的氣分とは假にも許されるものではなく飽くまで血と汗との生活の叫びであるべきだと信じて居ります。
【四】職業に對する單なる興味も、面白さをも、持ち得ない思想の貧しさを心苦しくはづかしく思つて居ります。やみ難い學究的要求と、思索と、然も現實に生き樣とする希望と惱みとに依つて、現在の自己の生活に喜びと意義とを感じて居ります。

×　靜岡　横山やす子

【一】獨立をして　くこと。
【二】職業婦人中に不良性の者多き事。
【三】社會より認められぬこと。
【四】眞の共同生活の面白さ。

× 東京　K子

背景として一子と自分との爲めに職(速記タイピスト)を持つ身より。

【一】喜び——1、先づ生活の安定を得る事の喜びの大なることを告白いたします。2、日毎を無駄なしに過せること、それに日曜日の休息なども小さい喜びの一つです。

【二】不安——健康を案ずるより外不安はありません。只將來の心配など時に起りますが、それは子供の爲めに消されてしまいます。

【三】憤り——大した憤りを感じたことはありません。強いて云へば女なるが爲めにか、粗雑な言葉を男子に聞されることです。男子の言葉遣ひは、女子に尊敬を得るか否かの分岐點と思ひます。

【四】面白さ——右から來た仕事を及ばずながら仕上げて、左にと廻す其愉快さです。一日の緊張はこの愉快と交換されつゝ疲れも何も忘れるのです。

× 和歌山市　井本くり

【一】職業生活をしてゐると、家庭に居る婦人に比して、常に刺戟を受けることが多い爲、自己修養に都合がよい。常に規律正しく緊張してゐるから、身体も精神も自ら健全である。

【二】私は家庭の子女教育上、留守を任せるよき雇人を得なかつた時に、最も不安である。

【三】社會の無節制なる横恣なる男子には婦人の節操を何とも思つてゐない樣なものが多々ある。かゝる男子は實に職業婦人の敵で、社會の風教を紊すもとである。かゝる者に對して、私は非常な憤りを持ちます。

【四】私どもの職業の面白さは隨分あります。自己の努力が教へ子の精神 は成績の上にあらはれたとき、かつて受持卒業させし教へ子の成功幸福を見る時。

× 東京　山野千枝子

【一】喜び

眞に自分の得意のもので、しかも未だ一般的には知られてゐない特殊の技術がお客樣に認められて喜ばれた時。

【二】不安

肉体的に職業婦人たる資格を持たぬ年若い助手達の、始終缺席勝ちの爲に起る不安は、其の技術が特殊のものである丈けに可成り大きうございます。

【三】憤り

人氣を尊ぶ女の弱い商賣をつけ込んで堂々たる男子が實に卑劣極まる方法を以て、あらぬ事を書き立てたり、しかもまたそれを制すると稱して、ゆすりにきたりされる時、又はあらゆる犧牲を拂つて折角教へ込んだ弟子が、どうやら一人前になつて、愈々店の爲に盡して貰ふといふ頃になると、(其の契約年期中にも係らず)技術を鼻に自己本位の要求をし、容れられなければ、勝手休みをするといふ手合、若しくは暇を取りたさに盗み(店のお金を)ました等と、店の迷惑を平氣で、行つてから豪語する不貞の者に逢つた時のいまいましさは、自分の不徳とは知つても忘れられません。(但しこんなのは例外かもしれませんが)

【四】面白さ

ひつつめの色黑の生際の抜けあがつたおでこさん、などと大きな聲でいつたら一大事ですが)を、ちよつとした手の入

れかげんで、みる〱入つて來られた時とは別人の様な若さ、美しさにお仕あげして行くおもしろさは、美くしい人をよま美しくする以上に愉快なものでございります。　以上

×　大阪　若林はなえ

私はみにくい女で、そのためにどんなに雇主の前に心狭く、肩身の狭い思ひをしなければならないか。あゝ、人の二倍も三倍もの働きだつていとはない位の氣持で、懸命に走り使ひから、電話の受付から、書類の整理、その他、來客へのお茶や、朝夕のふき掃除万端まで、――さうです。自分のふところを割いて、十錢二十錢の草花まで買つて、室内を飾るほど心を使つてやつてゐますのに（それも私のやうな者を、よく使つて下さると思へばこそ）卑しめた眼でじろ〱眺め乍ら、もつと美しい女を雇つたら商賣は未だ〱繁昌するのだ、といふことを口もとで聞かされる口惜しさ。月末に三十七圓を貰ふことの嬉しさも、何も彼も、たゞ口惜しさ、悲しさで一杯になるばかりでございます。美人でなくては職業婦人になれないとしたら、一体美人でないものは、何になつて生活の道を立てたらいゝのでせうか。

×　大崎　後久文子

一、馘首

それは彼女たちにとつて一番恐ろしい事であつた。それは毎年行はれる事ではあつたけれど、若い彼女たちにとつては恐しい事だつた。『馘首！』さうした恐しい思ひが彼女の頭をかすめてゐた時だつた。彼女には一年前にやめさせられた人達の悲痛な面持が思ひ出されてならなかつた。今度は誰の番だらうか、もし自分だつたら……………いや、自分は勤勉に働いたからまさかそんな事はあるまいと思ふが、……………罪もない人を紙屑でも捨てるやうにわけもなしに解雇する社會を憎まずにはゐられなかつた。行政整理――それが何だらう。善良な弱者を（上の者、強い者はいつだつてその犠牲にならないものだもの）苦しめる呪ふべき社會のこの事實！

×　長野　無名女

不安、も少し働かせておかないでは、家の事が立たぬと云つて、私の縁談を父母があとから〱斷つてゐること。いつまで女工女工とケイベツされてゐなければならないのか、さつぱりめあてがつきません。會社から金子を貰つて歸つた時、父母の嬉しさうな顔をみる事は嬉しいものです。然し、反つて、腹が立つて、氣持がむしやくしやする時もあります。ひとりでに泣けて來る事もあります。私がなまけてぼんやりしてゐても、器械が獨りでがつたん〱働いてゐるのをみるとをかしくて吹出す時があります。

×　東京　前田まつ子

いつ首になるか解らぬといふ不安が絶えずあります。いつも、どんな仕事でもいゝから、求人の口を一つ必ず見つけておくやうにしたいと心掛けてゐます。退職手當といふのは、どういふ時に異れるものですかしら。私の會社にはそんなものはないやうです。

女の人がもう少し強くなつて、理屈のないことで苛められた時など、女同志が團結して刄向つてやつたら面白からうにと思ふ事があります。

春向きの身だしなみ

色が浅黒くても、皮膚が何とも云へないツヤを持つて、生地からよく磨きこまれ、そして云ふに云はれぬ水々しい美しさを持つてゐる人があります。これがほんとうに垢抜けのした人であつて、たとひ色が白くても、どことなく肌の美しさがなくて、カサ〳〵した感じのする人があるものです。身だしなみの秘訣は、あつさりと生地からの美を生かすやうに、土台になる肌の手入れを充分にしなければなりません。

第一には無駄毛を剃ることです。どんなに美しい肌を持つてゐても、無駄毛があるとうす汚なく見えるものですから、手まめに剃刀をあてる事が大切です。頸脚の廻り、眉も、生際は特にその必要があります。

肌を整へるためには美顔マッサージをするのです。蒸しタオルで顔一面をむすことや、クリームをつけて揉む事は誰も知つてゐる事ですが、そのマッサージのとき、皺の方向にならつて揉まねばなりません。そして指先にきつく力を入れないで、軽く、軟かく、それでゐて或る程度の力を入れるのです。

顔を洗ひすぎないといふ事も大切です。日本人は顔を洗ふことを、まるで金盥でも磨くやうな積りで、やたらに磨き込まぬと氣がすまぬやうですが、これは反つて皮膚を荒すばかりです。朝夕の洗顔は汚れを除く程度で、洗顔クリームでざつと洗ふか、硼酸、アルコール、酸類を含んだ化粧液を綿にしませて、拭く位でよろしい。なほ、出來れば毎日でも、浴するのが最も肝心です。温、熱、寒氣その他、外からの刺戟によつて皮膚がザラ〳〵になつたのや、ツヤがなくなつたのなどを直すのは入浴が一番です。入浴後や洗顔後に、荒性の人ならベルツ水かクリームを、脂肪性の人ならライラツク水かマスター十番をつけると一番よろしい。

それから、充分に睡眠することです。ねむりの足りないのは、營養不足と共に最も皮膚のツヤを失ひ、彈力を失はせます。たゞに血色を悪くして肌色がうす汚くなるばかりでなく、お化粧までも晴々しないものですから、よく眠る事が肝要です。

女性よ

布施政一

女性よ
君達は愛に於て至純のものを與へるがいゝ
美に於て至上のものを與へるがいゝ
性に於て最深のものを與へるがいゝ
生殖に於て最高のものを與へるがいゝ

藝術家は君達を表現することによつて夢想し
哲學者は君達の內秘の殿堂にわけ入り
宗敎家は君達にマリアの榮冠を與へ
科學者は母体の最高標準に君達を決定する

そして社會は
おゝ社會は今や君達の力を外的活動に於て試錬し期待しやうとする
君達はそれに向つてもまた實に立派に出發した

女性よ
君達は君達を何處まで進めやうとするのか
君達への定義はつひにスフインクスか
君達は一体何者なのだ？

（一九二五、二、二三）

婦人運動戰線より

五十議會に於ける婦人に關する諸案

婦人參政權獲得期成同盟會　坂本眞琴

△むめおさん、あなたと御一所に、新婦人協會の仕事として、治警五條二項削除の運動をしたのは、大正十一年の四五議會でしたね。三年の日子が流れました。そして此五十議會では、私は婦參期成同盟會の議會運動部員さして、數旬の間、かなり苦しい疲憊の運動を續けて來ました。そうして、その運動の中心は、やはり同じ治安警察法の五條五號（政治結社加入禁止）の削除です。今私がこの疲勢の心身に鞭を加へて、あなたよりののつぴきならぬお求めに答えてこの稿の筆を執つたのは、二回の延長を重ねた、我帝國議會の最終日の三月廿八日の夜半で、議會では、普選、議院法、の爲二つの兩院議會が開かれ、風雲は甚だ急で「辛くも普選の妥協點が發見せられ、どうやら又延會になりそうです」と云ふ報が議會から傳つた處です。この樣な風雲の間に、私共の爲の唯一の法律案はどう埋れてゐませう〇

△貴族院で委員附托　二十七日（三月）の貴族院は普選を修正してこれを衆議院に回附して、極度の緊張裡にありました

政府、國民、の輿望である普選が、こんな最後迄、貴院に引かゝつて居る、その爲だ、その爲めにこそ私共の案も埋れるのだ。普選成立に附帶して提案されたと言はれ、一世の批難を浴びた治安維持法丈は、切先へさつさと兩院を通過してゐる。ごうした譯だらう、ほんとうに。私共は、こんな話をしながら、でも最後迄踏みとどまる事に致しました。この日、數日前に衆

議院から送附されて來た私たちの治警法案が上程されて、まもなく九名の委員附托になつたのであります。

△むめおさん。私の書き振りは事件の結果を先に叙した、逆の行方ですね。でも議員の諒解運動にまつはる、詳細な叙述なぞは、あなたのお好みにならん所と思ひます。でやはりこの逆叙でゆかして頂きます。

△三月十日。の衆議院本會議は公娼問題以外の婦人に關する諸案を全部上程して、「婦人日」となり、數百の婦人傍聽者のあつた事は、著名の事實ですが、私共運動に直面した者の上には、この日を招來する爲めには、言ひ知れぬ苦鬪と困難とがありました。今日はその總てを省略しますが、此日がかく會期切迫してからになつたと云ふ事が、婦人運動の不自由と困難とを物語つて居るものと、御諒察を願ひます。提出案は左の通りでした

一、治安警察法中改正法律案(山口政二氏提出)

二、女子高等教育の振興建議案(内ヶ崎作三郎氏提出)

三、婦人參政に關する建議案(松本君平氏提出)

四、市制及町村制改正に關する建議案(高橋氏提出)

一は結社、四は婦人の公民權を認めると云ふ案で御座います四案とも、提出議員の説明が終つてから、九名の特別委員に附托されました。此日「松本代議士及政府委員に質問」ありと云ふて、登壇した政友本黨の吉良老代議士は、自分の言葉に醉ふて、婦人運動をなす者を侮辱する言辭を弄して物議の種をまいて、その後これが取消をなすの機會をねらつて得られずに終つたと云ふ一のエピソードが作られました。

△委員會は流會又流會　作間耕逸、内ヶ崎作三郎、信太儀右衛門、高木正年、原夫次郎、原惣兵衛、吉田眞策、有馬賴寧、松本君平の九氏は、議長によつて指名された四案の委員です。山口高橋の二氏は委員外でしたが、提出者として趣旨辨明及答辨の衝に當つて、大に努力を致されました

○

十一日に委員長(作間氏當選)理事(吉田氏)の選擧が行はれ、十二日には第一回の委員會が開かれ、先法律案が審議されました。建議案は一院限りのもので眼前に實効の伴はぬものであり

ますので、先づ両院通過を要する法律案が審議されるのは、大變に都合がよいと喜んで居りますと、この第一回の審議中、はしなく同じ治警五條中の三號の神官、僧侶等の問題が起りました上に、政府委員が徹流的婉曲的に反對を表明しましたので、少々行惱の形となつて、次の委員會からは法律案を後廻しにして仕舞ひました。 四日には『公民權』の建議案が可決され、十七日には『教育案』が通過を致しました。速記錄をみますと、十四日の委員會では、(原)夫委員の發言中には『一面から云へば玩具の樣なものであるけれ共』と云ふ樣な句があります。

△流會、十七日以後の委員會は流會に次ぐに流會でした。會期は遠慮なく追つて來ます。『明日は必ず開く』と云ふ名刺、『間違なく〇日には開く』と云ふ委員長の私達に於ける言明、これ等はみな其日になると、故障の爲めに反古とされます『せめて衆議院だけでも』と二十日が過ぎると、私共は疲憊に近い心身を勵まして運動を續け、二十三日には、漸く續開されました。與黨が贊成で政府の反對と云ふやうな議案は、委員會を流會にして、握り潰す事が、四方八方、あたらず觸らずで、好都合とされてゐますので、この流會の防止にはほんとに惱まされ通しましたが、それ等のくだ〳〵しい敍述はやめます。二十三日には午前午後二回の委員會が開かれまして、婦人參政權の建議案は滿場一致で通過し、越えて二十四日午後、漸く治警法案が可決されました。

〇

△何でも一括して可決する妙案　山の樣なお土產建議案を審議する二十三日の衆議院に於て、作間氏は速射砲的の進行案として、建議案の委員長報告は、これを登壇報告する事なく、速記錄にのみ留めて、全然緣のない議案を幾つか一括して、可決すると云ふ名(ゝ)案を提出し、それに決しました。國民代表の衆議院がその意志希望を表現し、政府にその調査實施を求める建議案の權威として、實に情けない事だと思ひます。その結果として、二十四日の議場に於ては、百十幾つかの建議案が、議長と作間氏との間の打合せ濟み、應答によつて、僅に數分間に可決されました『異議なし』と贊成する

議員中、自分が提出者でない議案は一体何が議題とされて居るかさへ知る者はない様です。此百十幾つもの建議案中に、婦參敎育、公民權、の私共の三案も入つておつたのです。即ち三建議案は、第五十議會の衆議院に於て可決されたわけであります

△法案の下院通過。二十四日に委員會を通過した、治警法案は二十五日即ち議會の最終日に、衆議院の日程に登り、午前中に議題とされ、吉田委員長の代理報告があつて、質問なく、直ちに井本代議士によつて『第二讀會を開き三讀會を省略して速に委員長報告通り可決せられん事を希望します』との動議が成立しました。そうして議長がこれを起立に問ひました處、本黨席に殘存の十數名の外、全部起立して、この法案は衆議院を通過しました。この案は與黨間に於ては、自由問題とされてゐましたが、岩崎勳氏、樋口秀雄氏等の力強い『贊成』の聲につれて、席にあつた殆んど全部の代議士の贊成を見たのは、ホントに喜ばしい光景でした。本黨席では松田源治氏が『反對』『反對』を連呼してゐました。

○

△政府側の意見はあいまい　最後に政府側が、この法案に對して有してゐる見解を簡單に述べておきます。この法案が衆議院から送附されて貴族院に上程された時片岡內務次官は、山脇玄氏が、本案に對する政府の意見如何との質問に對して、『婦人の政治能力は未だ男子のそれに及ばぬから、政治の結社を許可する譯にはいかぬ』と一先、衆議院を絶對多數通過した案に反對意見を陳述してゐますが、更に婦人の政談演説解禁以後の成績を引いて質問すると、今度は、

『結社となると、多少取締其他に就いて束縛する必要があるから、我國情に照し將來を達觀して、絶体反對とは申さぬが、餘程の考慮を要すると思ふが故に本問題に就ては研究の上許可する方がよいと思ふ』

これは言葉尻を押えられぬ意味から云へば、正に名答辨でせうが、身昨日迄の在野の代議士としての片岡さんとしては、苦しい答辨です。しかし政府の考はこの答辨程度のもので、議會が押し切つて仕舞へば勿論それを認めるものと思ひます。

いざなひ

木村てるよ

『ね、一度行つてごらんなさい』

『…………』

『たつた二時間位ですむのよ――そして、そしてね十圓なの……』

『まあ！』

その十圓と云ふ言葉が、貧しい彼女にとつてどんなにか强いショックであつた。

『ちつともこわかないのよ．一緒にねるだけのことぢやないの…………』

『だけど――』

云ひためらひつゝも心はぐん〳〵と引かれて行く、行つてみやうかしら……だが。

『五時半ですよ――みなさん！歸りませう』

事務長のWさんが、例のかん高い聲を立てた。みつるは、肩におかれてゐる大津さんのぼや〳〵した手をすりぬけるやうにして、ぼんやりと窓に立つた。

くれてゆく日本橋どほり、夕もやの中にまたゝく四月の灯の、にほやかにふつくらとした快さ……………

みつるは思ふともなく美しい着物のことを考へた、家に病み伏せる老母、幼い妹達二人、そのやしなひの働きにはあまりにも細い十八の腕よ。

『あたしなんか――どうせ、普通の結婚は出來ないんだから………』
そう口の中でくりかへしてみたが、やつぱり決心がつきかねた。
たつた二時間で十圓――あゝそのお金は、自分が一ヶ月朝から晩まで働いて得る二十五圓にくらべて、どんなに容易で大きい收入であらう！
行つてみやうかしら……だが、どんなものだらうか、こわいだらうか――苦しいだらうか……そして一体どんな男の人が來るだらうか？そしてどうするのだらうか。
そう思つてゆくと、行く氣にもなれなかつた。
『みつるちやんの弱むしさん！あたしは今夜も行つてくるのよ！』
二階を下りかけた時、大津さんはそう云つてそろひ大島の袷せの袖をひるがへした。厚化粧の下のかさ〲した皮膚に、けれどかくしおほせない荒みがみえてゐた。
『さようなら――』
みつるは、木綿の縞の襟をかき合せて、とぼ〲と階段を下りはじめた。
『いまおかへりですか、僕お先へ』
足早にとほりすぎゆく後姿は、編輯部のKさんらしい。
『Kさん――』
あや　く口から出た言葉を、ぐつとのみ込んで、心ばかりその若人の後を追ふと、わけのわからないわびしさが、ひし〲とわき立つて來た。
『だが、――あの人を思つたつて、あたしなんか職業婦人だから奥さんにしてはくれない

みつるは、くちや／＼になつた心を抱いてとぼ／＼と電車通りに來た。夜のにほひが鼻をうつ、そのおだやかな香を雜踏の町角にかいでゐるうちに、みつるの胸はだんだんと冷靜になつて來た。

私は、どんなことがあつても肉を賣るまい。――それがどんなに外へみえない誰にも判らない事だつて――もしもあのKさんが、あたしを奥さんにしてやると、もしも云つた時、あたしが貞操をなくした女だと判つたら困るもの。

『あら、みつるちやん、何をぼんやりしてるの？』

『電車を待つてたの』

『相變らずあんたは赤ちやんね、いそいでかへんなさいよ』

仲間でも年かさな奥さんの木田さんが、さう云ひながら向ひ側の電車にのつた。

『あたしつよい女にならう、その方がみんなに心配かけなくていゝ――』

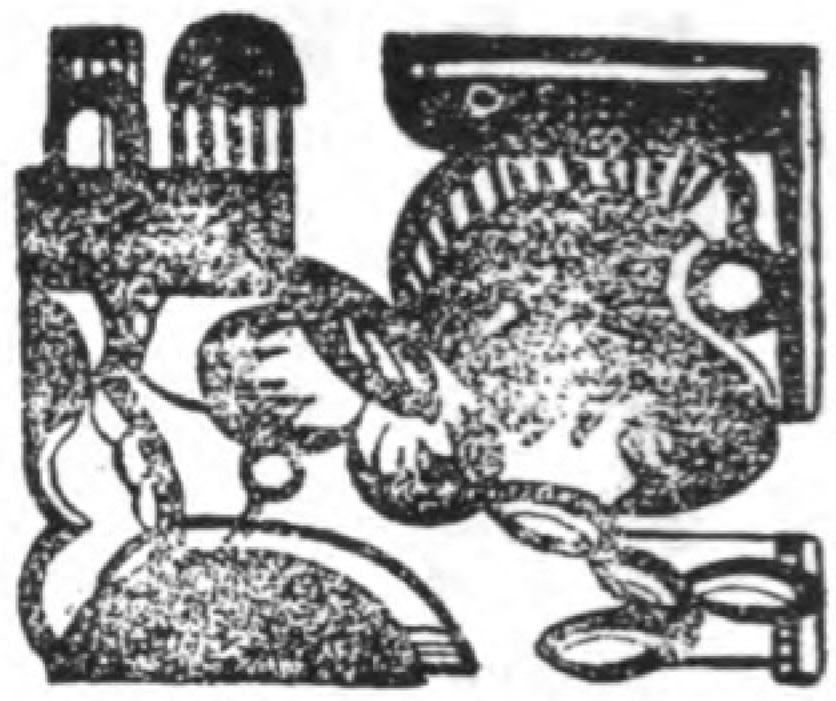
みつるはさう思つて、電車を待たず、足に力を入れてあるき出した。

四月の花ぐもり、子供のやうな甘い夜が、おほらかにこの十八の小娘のあたりをつゝんで、くもりない月が、かゞやき出してゐた。

それは――本石町の七時半――。

であらう』

……………あゝつまらない。



母性保護の問題

奥むめお

女は、すべて、種族の母として、次の時代に對して實に大きな責任をもつ性であります。女性が次の時代を生み、且つこれにいのちを與へるといふ一点に於て、その價値は絶對であります。そのためにこそ、女は尊重されなければならないし、保護されなければならないし、又權利づけもされなければなりません。

これまでは、子供はその兩親の私有物の如くに考へられて、子供の幸も不幸も、凡てその兩親の境遇如何にかゝつてゐたのですが、近頃では、子供は決してその兩親の私有物ではない、國家、社會の子供であるといふ思想にまで變つて來ました。從つて、母としての地位も一人一人の子供の母であるといふ以上に、廣い意味に於ける社會の母次代の社會を生み出だす母性としての新しい價値が、漸く世に認められかけて來たのであります。母性保護の精神は實に、こゝから出てゐます。

英米を初として諸外國では、理論と共に着々實行を進めて、遺憾なきまでに母性を保護することに努めてゐますが、わが國では最近、二三の社會事業團体がこの問題に手を染めかけたと新聞に傳へられてゐる位のもので、國家の施設としては勿論殆んどなく、社會的施設も極めて貧弱なものにすぎません。元來良妻賢母主義の一枚看板を誇つ

て來たわが國にして、今日かくの如くに母性を顧みないで跋扈されるがまゝに任せてゐるこの事實は、何といふ皮肉でせう。今日、幾人の女が彼女の家庭で安心と滿足との内に喜んでその天職を果しつゝあるでありませうか。今日の社會は女にとつて、妻であり母である事は、束縛であり、重荷でこそあれ、喜でも、滿足でもありえてはゐません。――極く少數の富裕な家庭の女は別としても――絶間ない生活の不安は、無産階級に屬する多數の女を脅かして、妻たり母たゞ彼女らを大きな不 と窮乏と屈辱とのために、母性とは即ち不斷の苦痛の萌芽である、といふ世にも痛ましいパラドックスに導いてゐるのであります

今日の社會は、事ごとに女から、良妻となるのに必要ないろんな條件を奪ひ、賢母となる途を妨げてゐます。御覽なさい。わが國の幼兒、乳兒の死亡率のどこの國に比べても高いことをそして年若い母親の澤山に死んでゆくことを。女の、早く老いぼけてしまふ事を。

◇英露の保性保護

勞農ロシアでは、兒童のための無料給養所を初め、母親及び乳兒の保護局、育兒展覽會、母親の相談所、母親の休養所、産院、授乳所、乳兒ホーム、兒童ホーム、その他母親や子供のためにいろ〳〵の施設が行届いてゐる中でも、育兒展覽會や母親の相談所には、知識のない農婦が見てもよく分るやうに、産前産後の心得や、子供の育て方、扱ひ方、恐しい遺傳病の話など母親と子供の保護に關するあらゆる事柄が、圖表や繪や模型やで、最も分り易く示されてゐるさうです。英國も、早くからこの方面に意を用ひてゐますが、母親學校、保健訪問員、母親及

び幼兒保健相談所、姙産婦の保養所、育兒法の敎育、榮養物の供給等は、著しい効果を多くの母親やその子供の上に與へてゐます。母親學校といふのは、幼兒保護に關する相談、母親に對する、養食の供給、裁縫、料理衛生の講習、母性貯金クラブ（姙婦の貯金　家庭訪問、産婦の相談、父親の會などをするもので政府もその敎育的効果を充分に認めて補助金を下附してゐます一九一三年にこの補助金を下附された母親學校の總數が一五〇校に達したといひます。保健訪問員の仕事は、主として家庭に於ける母親に注意を與へることでありますが、時折産婦を訪問し、出產の屆出があれば、產婆と共にいろ／＼產後の母体の注意や嬰兒の取扱ひ方等に就て敎へ、その後も子供が學齡に達するまで、一年に八回位絕えず訪問して助言をなします。

◎母親保護法

先頃英國の婦人が政府に對して「子供の養敎育は國家が當然に保障すべきものである。一人前の人間になる迄子供の養育費は當然國家の負担にかゝるべきである」と主張して子持年金の制度を要求してゐると傳えられてゐました。子持年金とは、子供をもつてゐる母親及び、その子供に幾干かの一定補助金額を國庫より補助することであります。

これによく似た法的保護制度がアメリカ合衆國や、カナダ、ニユージーランド、デンマルク等に既に實施されて居ります。所謂母親保護法案であります。これは家族の扶養者であつた夫に死別したり死別しないとしてもそれに似た不幸のために、母親がその子供の養敎育費に窮してゐるとき、國家としてその費用の全部又は一部分を補助して安心して子供を育てられるやう

にしてゐるのでありますが、追々もつと廣い範圍に――例へば心身上の故障で廢人同樣になつたときや、收監された時や、失業したときなど、及び內緣關係の母であつても適法の母の場合と同じやうに、更に進んでは、あらゆるの無產階級の母と子の保護を徹底的にやるまでに、擴張されやうとしつゝあるのであります。

◇母性を擁護せよ

我國に於ては未だ、母親としての女やその子口の保護に就いてはまるで意を用ゐてゐない中でも、目今職業婦人勞働婦人激增のこの大勢に際して、婦人の職業生活が殆んど例外なく、年若い女たちから、彼女がもつあらゆる美しいもの、純なもの、尊いもの、健康を打毀しつゝある事は大きな社會問題であると云はねばなりません。最近恐しい勢ひで婦人の職業分野が擴張されて來ましたが、なほ婦人の社會的地位の低い事、婦人が無自覺である等のためにそれらの職業婦人の大部分は、男子に比べて非常に惡い狀件で働いてゐるのであります。女の職業生活は女から女らしさを奪ふとは、よく一般に云はれてゐる事でありますが、雇主側が出來るだけ少ない資本を以て、能ふ限り莫大な利潤を占めやうとして、ことさらに社會的にも職業的にも訓練のない力弱い女を歡迎して使つてゐる事に依つて、女が思ふ存分に搾り取られつゝある事かくて女の持つ母性が無殘にもふみにぢられつゝある事を問題にする人は少ないのでありま す母性擁護、母性保護は、是非共女自身の聲として力強い輿論を形造るべきであります。

世界の婦人

□白耳義議會は去る三月七日上下兩院とも解散せられた。それは、婦人參政權の問題に就て政府與黨間に意見の一致を欲いた爲めである。

□ブラジルのリヲデ・ジャネーロの下院は、今度全國婦人に大統領をも含む凡ての公職の被選擧權を與ふる法案を提出した。

□佛蘭西のヴォジエル夫人は全國の勞働次官に任ぜられた。婦人で閣員となつたのは佛蘭西ではこれが始めてである。

□紐育のレインビーア夫人は全市の米國々立銀行の重役の地位についた。夫人の職名は未だ確定してゐないが、婦人銀行部の部長と云つたやうな格である。

□伊太利の議會で、新選擧法案中婦人に選擧權を與へる項目は委員會で否決された。通過した改正法案は、婦人參政權は無論含まず、地方的の選擧權にさへ觸れてゐない。

□北米カナダ婦人は今盛んに上院參加權獲得の運動中である。現在のカナダは一般に地方選擧に婦人の投票を許し、また州議會にも選擧權を持つてゐるが、未だ上院には席を占める事が出來ない。それは英領北米法中の語句『人(パアソン)』の法律的解釋が婦人を除外するからで、その改正には英國皇帝の允許が必要である。

□支那婦人有志數百名は過日民國大學に國際勞働婦人記念大會を開催し、數名の婦人辯士は何れも女權の擴張に關する主張を高唱して支那婦人の自覺を促した。

□メキシコでは多數の婦人が上院議員エメリダ・カリロ夫人の提出した請願に贊成して、婦人にも男子と同樣の權利を與へられんことを要求した。又上院議員ピトーアレジオ・ロープレスも今議會に女子參政案を提出する筈になつてゐる。



或る實話

マーク・トウエーン

それは或る夏の晩であつた。小山の中腹のある廣い農家の椽側で、丁度夕食を了へた私達は椅子を列べて涼んで居た。私達の足元近くにはレーチエル婆さんがキチンと行儀よく座つて居た。――彼女は私達の下婢で、黒人であつた。

脊の高い、岩丈な其體軀付がもう六十の坂をそこ／＼とは誰の目にも見えない。視力も衰へず、腕力なども仲々强かつた。そして彼女が笑ふ事と云つたら全く小鳥が囀ずるよりも無造作だと云つて宜い位、何につけてよく快活に笑つた。どう見ても彼女は最も樂天的な人の好い老婆であつた。

それはいつもの事だが、私達の家では此の老婆を戯弄ふ事を食後の運動位に心得て居たので、今晩も一日の業務（つとめ）を了つた彼女は相變らずの攻擊を被むつて居た。が、快活な老婆は皆の罪の無い氣心をよく呑み込んで居たし、それに亦彼女の單調な暮しが反つてそうした事なぞに依て事實慰められるのでもあつた。それで彼女はいつもキヤッ／＼と笑ひ乍ら皆の御相手をするのが常であつた。

また、手ひごくやつつけられた時なぞは、もう可笑しくて可笑しくて溜らないと云つた風に、面に兩手を當てた儘、默つてその肥滿した體軀を只左右に搖ぶつて居る時さへもあつた。

そうした或る瞬間、不圖私は或る妙な感にうたれた。そして半ば感嘆の氣持ひ交へながら、ふと私は彼女に尋ねた。

『ねえ、チーラ婆さん、お前が此長い年月を何の苦勞もなくこうして愉快に暮して來た事は全く不思議だね』

彼女はいつもの戲弄に似合ぬ私の言葉に、身體の搖振りをピタリと止めた。彼女は暫らく何を云はうかと躊躇して居る樣であつた。そして一瞬の間、座はひつそりした。が軈て彼女が、肩越しに私の方へ視線を向けた時には、いつもの笑ひが彼女の面から消えて居た。

『旦那、あなたは眞面目で有仰るんでせうね。』

彼女の反問に皮肉を感じた私は少からず狼狽した。私は再び態度を改めざるを得なかつた。そして私は口ごもりながら云つた。

『でも……お前には何も苦勞なんか無さ相じやないか。いつもニコ〳〵して、本當にお前が溜息一つ吐くのを見た事がない……』

私を凝つと視つめて居た彼女の目には、見慣れぬ哀愁のうるみが漂つて居た。

『旦那、旦那、私に苦勞なんか無さ相ですつて。では貴下に今此所で私の身の上話を致しましやう。それをよく御聽きなすつた後で何とでもおつしやつて下さいまし。旦那。』

『私はあの黑奴の中で生れた者です。それで奴隷の事なら何でも知つてますよ。だつて私ももとはその奴隷だつたんですからね。それでね私にも亭主がありましたが、それは〳〵親切ないゝ人でしてね丁度旦那樣が奧樣を可愛がりなさるごそつくり、私をば可愛がつて呉れましたよ、全く……

『それに私達二人の仲には子供が都合七人ありましたがね、それも旦那方が坊チヤンや孃サンを可愛がりなさると同じ樣に、矢張り私達にも可愛い子供でした。――皆んな黑ン坊でしたがね、いくら黑いと云つても神樣は親が憎いと思ふ程黑くはお作りなさらない。いえどんな眞黑だつて、私達夫婦にはそれは世の中のどんなものとでも替へられないんですからね……

『それでね旦那、私は一體あのヴアジニヤで生れたのですがね、お袋てのはメリーランド生れなんです。そのお袋の癇癪持と云つたら大變なものでしてね。どんな男でも皆裸足で逃げ出す位でしたよ。そして可笑しいんですよ、お袋には十八番の極り文句がありましてね、何か癪に障ると、いつも手を一寸お尻の上に乘つけて外見をきるのが癖なんですが、それから太い聲で「お前らの樣なドブ鼠に馬鹿にされる俺じやねえぞ、憚ン乍ら俺達はメリーランドのチヤキチヤキだ！」と怒鳴るんですよ。彼地らの人達は皆之のメリーランド生れと云ふ事を偉く鼻にかけて威張るんですよ。

『其れがお袋の十八番だと云ふのは、私や忘れもしませんよ、或る日の事、宅の坊主のヘンリーが手の骨をひどくぶつ違へましてね、お負けに額を痛くすりむいて、も少しで頭をぶつ潰す所でしたが、なんでも村の黑ン坊等の駈け附け樣が遲かつたとかで、お袋が大變腹を立てましてね、何か皮肉でも云つたらしいんです。そうすると黑ン坊達が又その口答をやつたもんだから、もう眞赤になつて「よく聽けよ、此のドブ鼠等め、憚り乍ら俺らメリーランドのチヤキ／＼だ！」つて卷舌で怒鳴つて置いて臺所で餓鬼の頭へ繃帶して呉れましたがね。それで私もとう／＼その眞似をする樣になつちまいましたよ……。

『それから、旦那、私の先の主人の奧樣がね、何かの手違ですつかり身代を無くして仕舞ひなすつてね、持ちもの丶黑ン坊迄をとう／＼人手に渡さなきや成らなく成りましてね、私等も一緒にとう／＼リツチモンドの糶市に出されて賣られつちまつんですがね、その時は、旦那、私は全くどうしやうかと思ひましたよ。

レーチエル婆さんは話に段々實が入つて來る度に、その肥滿した體軀を延ばし延ばしゝて居たが、お終ひにはもう突立つて仕舞つた。キラ〳〵と輝く星空を背景にし乍ら彼女の黑い影が巨人のやうに私どもの目の前に聳えて居た。

その不得要領の眉毛のあたりに、私どもには何とも知れないやうな悲痛な皺を上下させ乍ら彼女は話を續けた。

『其時、私達を鎖で繋いで、丁度この緣側位もありましたか、高い臺の上に乘つけましてね、それから大勢の人が其の上に立つて居る私達を取卷いて、腕をつかんで見たり、歩かせて見たりしながら「こいつは少し齡食だ」とか「此奴は少し跛だ」とか「こいつはあまり役に立つまい」などゝ丸で牛か馬かの樣に扱ふんでしやう。

『そうするうちに其の人達が私の亭主を無理やりに連れて行つて仕舞ひました。

『それから私の子供達を賣り初めまして、一人連れ出し二人連れ出し賣初めた時には私はもう堪らなく成つてシク〳〵泣き出しました。すると一人の男がやつて來ましてね「默つて居ろ！ 此の糞婆ッ」と云つて私の口へ拳骨を食はせるんです。

『それから一番幼いヘンリーが殘りました時、私はもう我慢が出來なく成つて、いき成り倅を抱きしめて……丁度こんな風に胸へ押當てた儘私は立上つて「この兒を取つたら承知しないぞ！」——「この兒へ指一本だつて觸つたら殺しつちまうぞ！」つて大聲で怒鳴つてやりましたがね。その時ヘンリーが私の耳へ唇を當てる樣にして「お袋心配するな。俺れはキッと逃げ出すから。そしてうんと稼いで金を蓄めて、お袋の身受をしに來ると申します。

『あゝ彼奴は本當に神樣がお守り下すつたのです。あの兒はまつたく順從しい、いゝ兒でしたよ。

『でも、矢張り可哀想に其時はあの憎らしい糴場の奴等にとつ捕まりました。私や、それでもう如何成つても構はない氣に成つて、其奴等の着物をビリ〳〵に引さいて、お負けに手の鎖で頭をゴッゴッ

打擲つてやりましたら、其奴等に私もうんと引敲かれましたが、あなた、私は別に痛いとも思やしませんでしたよ。

『それで私の亭主も連れて行かれるし、子供等も全部何處かへ行つちまいましたがね、それ成り今日と云ふ今日迄ついぞまだ影も見附かりませんが、へえ、此の事件があつてから此の復活祭で丁度丸二十二年になりますがね……。

『私はニユーパンと云ふ所のお方にを買はれましてね、其所へ連れて行かれましたが、其所で何年暮しましたか、そのうちあの南北の大戰爭がおつ初まりましてね、私の御主人てのは南軍の大佐だつて事でしたがね、私は其所でコックをして居りました。

『間もなく北軍がその町を占領しました時には、もうあの大きなお邸には誰れも居なく成りまして、只コックの私と他の黑ン坊が二三人ボンヤリ殘つて居りました。

『其所へ北軍の士官樣が陣屋を構へられましてね、私に其の士官樣たちのコックに成つて呉れつて賴む樣に云はれました。そこで私は何の士官樣、御賴みには及びません私が此所に居りますのは全くその爲なんですから」と申し上げたら、士官樣たちは偉く喜びましたよ。

『本當に旦那、それは皆立派な士官樣計りでしてね、その中での大將樣が私に臺所の取締りに成れとお仰つてね、「誰でも關はない、若しお前の邪魔する者があつたら遠慮せずにけり出してやれ」お前はもう味方の中に居るんだぞ」とお仰つて下さるんですよ。

『其所で私考へるに、若しヘンリーが逃げたなら屹度北へさして逃るから、これは一ッ北からいらつした士官樣にお話したら何かの手懸りに成るかも知れないと思つて、或る日手拭を目に當てゝ私は士官樣の御部屋へ參りました、そしてヘンリーの事を全部お談しましたらね、此の黑ン坊の愚痴をば何

とも思ひなさらず、反つて丁度白人様と同じ様に偉く同情して呉れましてね、私はまるで親身の人にでも逢つた様に嬉しさが胸一杯に込み上げて參りましたよ。

『そこで私は「士官様に御願ひに上りましたは外の事でもありません、私の小兒のヘンリーてのが若し逃げ出したらば、屹度士官様のいらしやつた北の方さして逃げたに違ひありませんが、ひよつと左の手首と額とに大きな疵のある黑ン坊の小供が御前様方のお目に止つたら、何處らにうろついて居つたか一寸敎へて頂き度ふ御座いまします」と申上ると大將様は「お前とヘンリーと別れたのは一體何時頃の事なんだ」と御聞きになるから私は「左様で御座います、もふ十二年前にも成りましやうか」と申しますとね、大將様は「それじやもうヘンリーはお前の云ふやうな小兒じやない、立派な大人だ」と仰しやつて笑はれました……。

『全くそれ迄一寸も氣が附かなかつが、十年から別れて居ても、私は矢張りヘンリーをほんの小兒としか思つてませんでしたがね、其時大將さまに云はれて初めて合點が參りましたよ。

『然しどの士官様もヘンリーには逢はなかつたとおしやるから、私の御願した事も無駄でしたがね、私がこんな事を御願して居る遠の昔に、ヘンリーは矢張り北の方へ逃げましてね。向ふで散髮屋になつ居たんですとよ。しかも自前でね。

『そのうちに戰爭が始まるとヘンリーは「さあ、もう俺は商賣は止めだ。これからお袋の死なゝい前に一つどうしても探し出さなきやならない」と朋輩等に申しましてね、店も綺麗に讓つてしまひまして、それから直ぐ一人の大佐さまのお供をして戰爭の中を方々駈けずり廻つて、此婆アを探して呉れたのですつて。旦那、全くあの小僧はね、一人の士官様から又他の士官様と、彼地此地に傭はれて命懸けて偉く私を探したといふに私がそれをどうして知らずに居たかと思ふと、私なんだかヘンリーに濟まなくてお天道さまもその時はあんまりだとつくぐ思ひました。

『ある晩の事でした、私達の所で大ぜい軍人さんの舞踏會がありましたがね、へえ、ニエーバンて所では、いつも休暇を貰つた兵隊が何だとかかんだとか騒いでましたがね、私の所の臺所が廣くて宜いといつて、よくやつてましたが、私はそんなものは大嫌でしてね、何故だつて旦那。私の所は士官様計りでしやう。そのお邸の臺所でそんな兵卒風情が躍つたり跳ねたりするのは私何だか勿體ない様に思ひましてね。それで私はいつもやくざ者が來るさ、もう默つて居ないで、直ぐ出て行けつて追拂つて仕舞ひましたよ。でも私は矢張り其所等を綺麗に片附けて置きましたよ。兵隊さんに見られても恥しくない様にさ。

』さあ、其所で何でもね旦那、たしか金曜日の晩だつたけか、私達の御邸――そこは丁度參謀本部つて所になつてましたんですがね――そこを衛つて居た黑ン坊の一小隊がごや〳〵連れだつて私の所の臺所へ這入つて來たのです。私やもう、目が回る様に忙しくて丸で狂人見たいに氣をイラ〳〵させて今に奴等が何か初めればうんと怒鳴りつけてやらうとそれ計り待つて居ますとね、奴等はそれは面白相にソルッを踊つたり歌を唄つたりなんかして、いやもう大變な騷ぎでしたがね。私は一つ怒鳴りつけてやるのが今か〳〵と待つてゐますと、その中に一寸小意氣な若い黑ン坊が旦那、面の黄い娘ッ子(Mulatto)の腰をかゝへ込んでね、部屋中をぐる〳〵はね廻るんでしやう。見てゐる此方までが醉つて仕舞ひ相なんですよ。それが私の傍へ來ると一寸左の爪先で立つて見たり、又右の爪先で立つて見たりしながら、私の被ぶつてゐる赤い頭布を見て戲弄ふやうに二人で何かいつては笑ふんでせう。私はもう腹が立つて「えゝ五月蠅い、あつちへ行け、この祿でなしめが!」と怒鳴つてやりましたらね、その若い男の方が一寸顔色を變へましてね――それはほんの一息位でしたがね――凝つと私の顔を見てましたが、直ぐ又元の通りニコ〳〵して踊り乍ら行つて仕舞ひました。

『その時、軍樂隊の黑ン坊がごや〳〵這入つて來ましたが、其奴等つてば、何時も威張らないでは暮せない厄介者でしてね。そ奴等の鼻端を一つ叩き折つてやるのは今夜だと思ひましてね、一つ大きな

聲で怒鳴つてやりました、所が其奴等は平氣の平左衛門で、反つて笑ひ出すんでせう。すると他の兵卒も皆一緒に笑ひ出したので、私はもう我慢が成らなくなつて、目が血走つて息が苦しく成つちやつたんで、もうこれ迄だと思つて、うんと胸をつき出して天井にまでも支へる樣にそれ反つて、こんな風に兩の手をお尻へ乘つけましてね「よく聞けよ。お前らの樣な泥鼠等に馬鹿にされる俺じやないぞ憚乍らこちとらはメリーランド生れのチヤキチヤキだ!」と怒鳴つけてやりました。

「私はまるで大將氣取りで兵卒どもをすつかり追出してやりましたかね、そうしたら先の若い黒ン坊が何か物忘れでもして急に思ひ出せない樣にぼんやり天井と睨め競をやつてましたが、他の黒ン坊の一人と一緒に表に出かけながら「ジム! お前、隊長の所へ行つてな、俺は明朝八時迄に歸隊するからつて左樣云つてくれないか。俺れはどうせ今夜は考へ事があつて寢られねえから、お前先に歸つてそう云つてくれ」と傳言してるんですよ。

「これが朝の一時頃でしたがね。それから丁度七時頃に私はもう起きまして、士官樣へ朝食を上げて居ました。そして私が丁度オーヴンの前へ蹲踞んで――丁度旦那の足がオーヴンなら、丁度こんな具合に私が右の手でオーヴンの蓋を開けましてね――そうしてビスケットの燒皿を手にもつて顏を上げやうとする途端、眞黑な顏が覗き込む樣にして一心に私の顏を凝視めてゐるんでせう。――丁度こんな具合にして旦那の顏を覗き込む樣にしてね――私は又吃度誰かの惡戲だと思つて私もぢつと、睨みつけてやりました。私はそんな時など決してあわてやしません。

「そのうちにどうした譯か私の手にもつて居た皿がぶる〳〵震えだしましたが、その時私はそのわけが全く解つてしまひました。皿は私の手をすべつて床の上に落ちてビスケットが其所等中にころげまわりましたがね、私はそんな事に頓着はしません。いきなり其奴の左の腕を摑んで袖を捲つて見ました。それから額の髮を掻上げて、そして思はず「おゝ私の坊や!!」と聲を上げました「お前が私の

兒のヘンリーで無けりや一體その額と腕の傷をどうしやうといふんだ」といつて私は其奴を赤ン坊の様に胸へ確つかり抱締めて嬉し泣きに泣きましたよ。

「あゝ矢つ張り天道さまは有難い。私の坊やの可愛いヘンリーがとう〳〵見附かりました。

「いゝゑ、旦那、どうせ私なぞには苦勞なんかありますまいよ。まして嬉しい事なぞは尚更ですわね

（終り）

誌代五錢値上に就て

今月より誌代を貳拾五錢に値上げする事にいたしました。發行部數を二倍にしてから値上げをするといふのは變ですが、今までが安すぎたのですから、外の雜誌と比較したら、猶ほ非常に安い事は認めて頂けると思ひます。値上げから浮いて來る餘力を傾けて、一層內容を充實させるために努めることは云ふまでもありません。

誌代は必ず前金にて拂込んで下さい。集金郵便にて誌代を申受ける時は、局にて參圓以下は取扱ひませんから一ヶ年分金參圓だけ纏めて頂くことにいたします但、集金郵便は誌代の割引もせず、その上お互ひに不便なものですから、是非あなた方よりお拂込みを願ひます

△編輯室にて▽

春らしく軟い風が吹いて來て、新らしい元氣が身うちに溢れるやうな思ひがします春のいゝおと、つく〲かう心の內に囁かれるではありませんか。全てのものが、空から、土の中から、新生の凱歌をあげてゐます。あゝ、私たちも新しい元氣で働きませう。

○

私はこの四月の下旬から五月の中頃まで主婦の友社の講演音樂會に招れて九洲一圓の旅に出かけます。初めて見る九洲の山河風俗、殊に新綠もゆる折柄の氣候、今からどんなに珍らしいもの丶いろ〲が私を待つている事だらうと、心もそわ〲と落付かない位です。珍らしいおたよりは五月號からの誌上で。ひまがあつたら、この雜誌を讀んでゐて下さる同地方のかた〲にもお會ひして歸りたいと思つています。悉しい日程はどうぞ主婦の友誌上でみて下さい。そして、どうぞ訪ねて來て下さい(奥)

前納誌代

一部	二十五錢 郵税九厘
半年分	郵税共)一圓四十錢
一年分	(郵税共 二圓八十錢

送金法

誌代は必ず前金の事
送金は振替で願ひます
誌代の受取證は別に出しません。雜誌發送を以てこれに代へます

大正十四年三月三十一日印刷納本
大正十四年四月一日發行

發行編輯兼印刷人 奥むめお
東京市外巣鴨町一〇一九

印刷所 香柏社印刷所
東京市外西巣鴨町六六〇
電話小石川五一八四番

發行所

東京市外巣鴨町一〇一九
職業婦人社
振替東京六四一六〇番

大正十三年十一月十二日第三種郵便物認可
大正十四年三月三十一日印刷納本
大正十四年四月一日發行

婦人と勞働

第三卷
第三號

【定價二十五錢】

